

教材名「たし算とひき算」

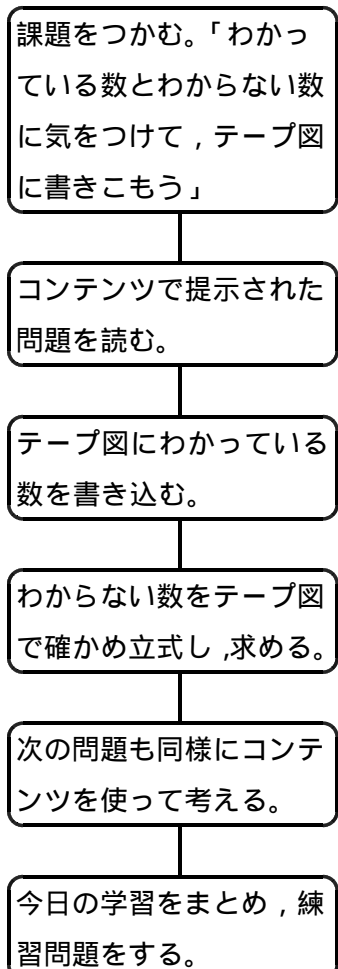
目 標

- ・ 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いることができる。
- ・ 文章の問題場面を理解し、テープ図をもとに立式し、問題を解決できる。

コンピュータを活用する利点

児童にとって「難しい」と抵抗感のある文章問題をわかりやすくするために、まずテープ図に表す。その上でテープ図から立式し、問題の解決を図る。その際、テープ図のデジタルコンテンツを黒板に投影し、思考の手助けとする。黒板投影型コンテンツは授業の中で使いたい時に簡単に使用でき、チョークで書き込むこともできる。児童が数字を自分で書くことも可能なため、興味を持って学習に取り組むことができると考えられる。

授業の流れ



ICT 活用場面

黒板投影型コンテンツで「青い色紙が38まい、赤い色紙が63まいあります。色紙はぜんぶで何まいあるでしょうか。」という問題を提示する。次に、問題の順序に沿って、色を変えたテープ図をコンテンツを用いて示す。指名した児童にわかっている数を黒板に記入させ、他の児童は各自のワークシートに書かせる。「ぜんぶで」の言葉に着目させ、なに算になるのか考えさせて、テープ図でどこの部分を求めるのか確かめさせる。立式と計算も黒板とワークシートを用いてする。

次の問題も同様にデジタルコンテンツで提示し、考えさせる。前に学習した問題やテープ図を別に用意し、振り返りながら学習できるようにした。



成果と課題

授業後、児童にアンケートをとったところ、「コンピュータを黒板に映す勉強が楽しかった」と答えた児童が大半であった。黒板に投影すると自分の考えを直接チョークで書き込めるので、難しい課題にも、意欲的に取り組めたようである。ただ、天気によっては黒板に投影した画面が見えづらい時もあり、工夫が必要であると感じた。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン1台、プロジェクタ
使用ソフト名	Power Point (マイクロソフト社)
使用教室	普通教室